

# 保健福祉学部に期待すること

旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部

学長 三 上 隆

旭川市立大学は、学校法人旭川大学を前身として、2023年4月に旭川市が設立する公立大学法人旭川市立大学として新たなスタートを切りました。

保健福祉学部の2学科、コミュニティ福祉学科と保健看護学科は、学校法人時代の2008年に創設され、以来人間の尊厳とQOL（生活の質）の向上、豊かな地域社会の創造に貢献することをテーマに教育研究活動を展開してきました。

法人化後もこのテーマは不変です。特に教育面では、学生は医療・保健・福祉のそれぞれの専門分野を学び、高度な知識と技術を修得し、さらに高い人権感覚と倫理観をもち、豊かな人間関係を築きながら地域で生きる人々を支えられる人材の育成を目指しています。

公立大学は平成期に集中的に設置され、現在その数は100大学（本学が100番目）に達しています。その背景には、1）地域における学生の進学機会の確保、2）地域の経済振興、及び3）地域の保健福祉人材の育成等の要因が挙げられます。

公立大学協会事務局による学部の系統分類調査（令和4年度公立大学便覧に基づく）によれば、最も多い系統は、看護・保健医療・福祉関連系統の学部で、全210学部の1/4を超える54学部が設置されています。その要因の一つとして、平成4年に制定された「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、地域における看護師等の確保を必要としていた地方自治体が、公立大学をその養成機関として位置付けたこと等があげられます。このように、本学保健福祉学部には、地域看護と地域福祉の分野で、今まで以上の大きな役割が期待されています。

本学は理念の1つに「知の拠点として地域社会に貢献する大学」を掲げています。我が国の地域（地方自治体）の多くは、「人口減少」、「高齢化」、「経済縮小」に直面しています。特に北海道は、人口減少率と高齢化率は都道府県別では最も高い数値を示し、また全道179市町村のうち、152の市町村が法の定めによる過疎市町村です。このような重い課題を有する地域における人々の生活と健康を守るためには、本学保健福祉学部が核となり、地域とのさらなる連携の下、多職種・異分野協働による活動が望まれています。

最後に、高齢化と人口減少がさらに進み、人的資源も乏しい地域においては、地域看護と地域福祉の分野において地域社会を維持していくために必要な専門職者の育成とともに、地域の特徴と時代変化を捉え、未来に向けた価値の創造に資する人材育成と研究の推進が、本学保健福祉学部に期待されています。